

地域幸福度(Well-Being)指標に基づく 村民意識調査結果の主なポイント

令和6（2024）年11月12日（火）

(1) 地域幸福度(Well-Being)指標に基づく村民意識調査について

①調査の概要

- 本調査は、村民の地域幸福度に関連する意識を調査し、次期総合計画の策定の参考とすることを目的に実施した。
- 調査対象として、東海村在住の18歳以上から1,500人を無作為抽出し、郵送又はウェブにより回答を受け付けた。
- 調査期間は令和6年8月9日（金）～8月30日（金）。
- 調査対象者数（配布数）1,500件に対し、有効回収数は502件（郵送:382件、WEB:120件）であり、有効回収率は33.5%だった。

②地域幸福度(Well-Being)指標が用いる偏差値について

- 地域幸福度(Well-Being)指標では、偏差値化した主観指標・客観指標を使用している。
- 客観指標は、人口10万人以上の自治体の数値をベースとした偏差値を算出している。人口10万人未満の都市については、上記の都市の平均値と標準偏差を適用して偏差値を算出している。数値の高い方が悪い状態を表す一部のKPI(交通事故件数等。該当KPIはKPIカタログ参照)については、数値が高いほど偏差値が低くなるように計算式を修正している。
- 主観指標は、人口10万人以上かつ回答数100以上の自治体の数値をベースとした偏差値を算出している。人口10万人未満または回答数100未満については、上記の都市の平均値と標準偏差を適用して偏差値を算出している。

■ 偏差値計算式

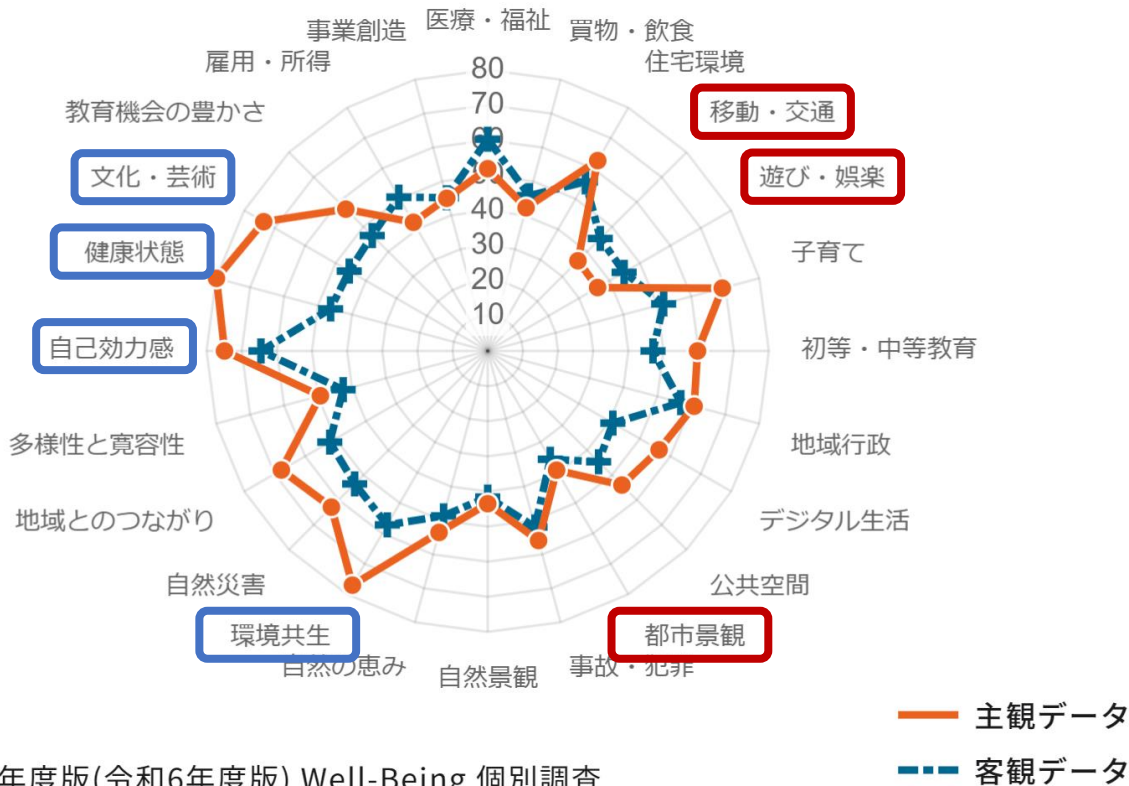
$$(\text{偏差値}) = \pm \frac{(\text{当該自治体の数値} - \text{平均値})}{(\text{標準偏差})} \times 10 + 50$$

(↑数値が高いほど悪い状態を表すKPIについてはマイナスを使用)

(2) 全体の結果の概要

- 偏差値の高かったカテゴリーは、「健康状態」、「環境共生」、「自己効力感」、「文化・芸術」など（いずれも主観データ）。
- 偏差値の低かったカテゴリーは、「都市景観」、「遊び・娯楽」、「子育て」など（いずれも主観データだが、都市景観は客観データも該当）。

カテゴリー別



カテゴリ・評価指標	主観データ	客観データ
医療・福祉	51.9	60.3
買物・飲食	42.2	45.8
住宅環境	62.6	55.6
移動・交通	36.3	45.3
遊び・娯楽	36.1	44.8
子育て	69.1	51.8
初等・中等教育	59.7	47
地域行政	60.8	56.9
デジタル生活	56.3	41.1
公共空間	54	44.6
都市景観	39.2	35.6
事故・犯罪	55.9	51.9
自然景観	43.5	41.6
自然の恵み	53.5	48.6
環境共生	77	57.2
自然災害	62.9	53.5
地域とのつながり	67.8	51.9
多様性と寛容性	49.3	42.6
自己効力感	74.9	64.5
健康状態	79.9	46.3
文化・芸術	73.6	45.5
教育機会の豊かさ	57.1	46.5
雇用・所得	42.3	50.6
事業創造	45	45.2

【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

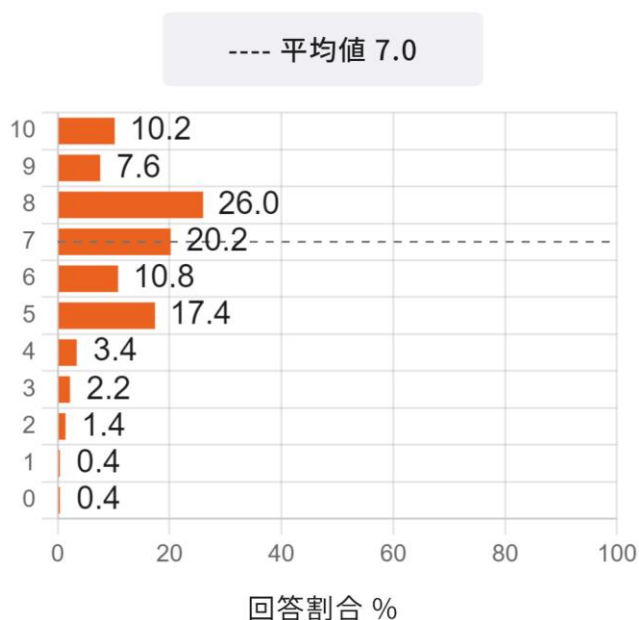
(3) 幸福度

- 本村の幸福度の平均値は7.0となった。
- 2024年度の全国平均である6.49と比べると、0.51上回る結果となった。

問1－1. 現在、あなたはどの程度幸せですか。

「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

幸福度



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

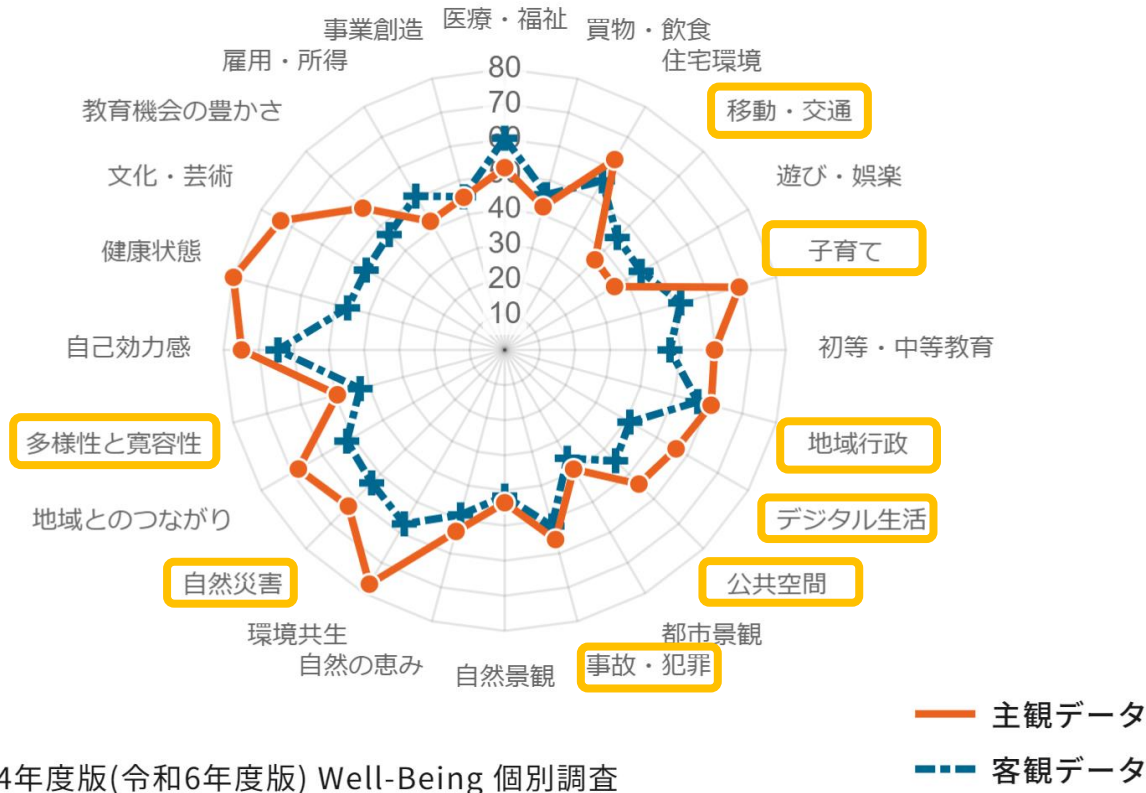
主観的幸福度の経年比較 (全国平均)



(4) 重点政策パッケージにおけるベンチマークカテゴリー

- 重点政策パッケージにおけるベンチマークカテゴリーは、以下の通り（黄色塗り箇所）。
- これらの偏差値がどのように推移するかを踏まえ、施策内容の検討を機動的に改善する。

カテゴリー別



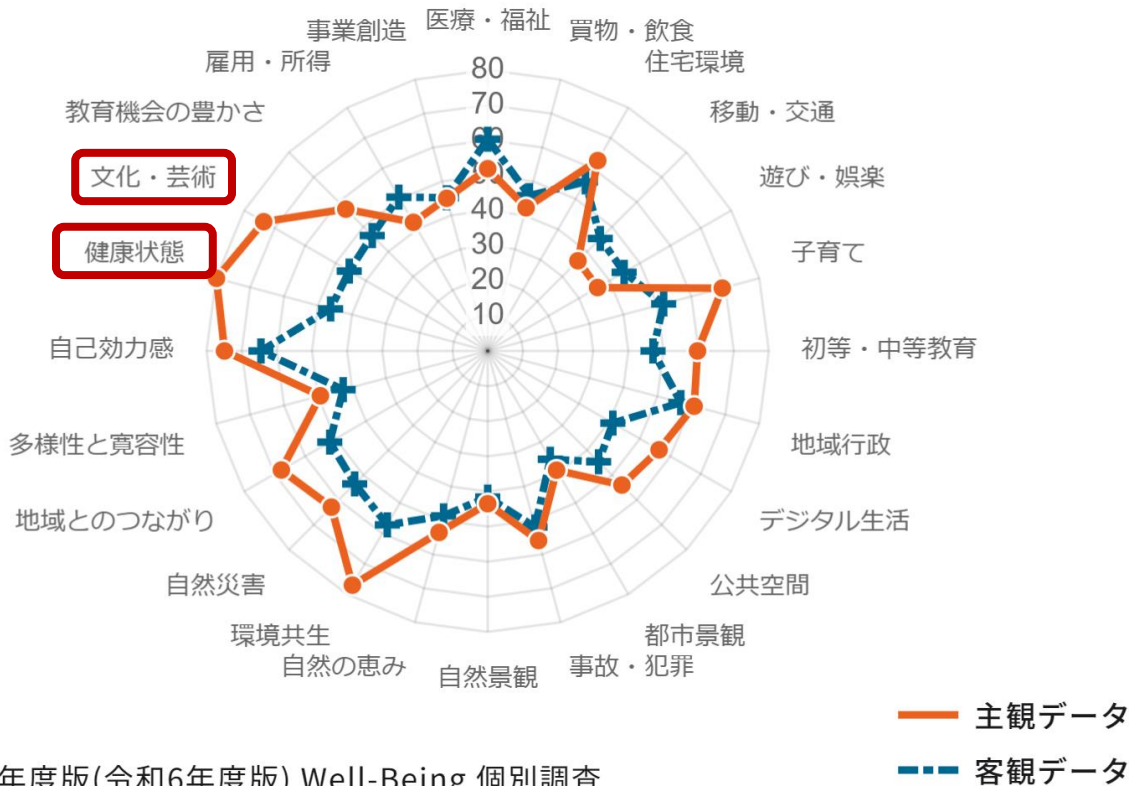
カテゴリ・評価指標	主観データ	客観データ
医療・福祉	51.9	60.3
買物・飲食	42.2	45.8
住宅環境	62.6	55.6
移動・交通	36.3	45.3
遊び・娯楽	36.1	44.8
子育て	69.1	51.8
初等・中等教育	59.7	47
地域行政	60.8	56.9
デジタル生活	56.3	41.1
公共空間	54	44.6
都市景観	39.2	35.6
事故・犯罪	55.9	51.9
自然景観	43.5	41.6
自然の恵み	53.5	48.6
環境共生	77	57.2
自然災害	62.9	53.5
地域とのつながり	67.8	51.9
多様性と寛容性	49.3	42.6
自己効力感	74.9	64.5
健康状態	79.9	46.3
文化・芸術	73.6	45.5
教育機会の豊かさ	57.1	46.5
雇用・所得	42.3	50.6
事業創造	45	45.2

【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

(5) 主観データと客観データのギャップが大きかったカテゴリー

- 主観データと客観データのギャップが大きかったカテゴリーは、「健康状態」、「文化・芸術」など。
- これらのカテゴリーは、既存の施策とその成果に対する村民の認識のギャップが存在する可能性もあり、今後の新たな計画の進行管理に当たっては、ベンチマークとして設定した指標とともに注視が必要と考えられる。

カテゴリー別



カテゴリ・評価指標	主観データ	客観データ
医療・福祉	51.9	60.3
買物・飲食	42.2	45.8
住宅環境	62.6	55.6
移動・交通	36.3	45.3
遊び・娯楽	36.1	44.8
子育て	69.1	51.8
初等・中等教育	59.7	47
地域行政	60.8	56.9
デジタル生活	56.3	41.1
公共空間	54	44.6
都市景観	39.2	35.6
事故・犯罪	55.9	51.9
自然景観	43.5	41.6
自然の恵み	53.5	48.6
環境共生	77	57.2
自然災害	62.9	53.5
地域とのつながり	67.8	51.9
多様性と寛容性	49.3	42.6
自己効力感	74.9	64.5
健康状態	79.9	46.3
文化・芸術	73.6	45.5
教育機会の豊かさ	57.1	46.5
雇用・所得	42.3	50.6
事業創造	45	45.2

【出典】 2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査